

命の重みを学ぶゲートキーパー養成講座

9月14日（木）

4時間目、体育館にて3年生全員を対象とした上記の講座が開催されました。

講師は、聖十字病院 在宅支援事業部長の藤木 誠氏で、精神保健福祉士でもあります。

年間 20,000 万人の人が自殺で命を落とす。1日に換算すると55人の人がなくなる。その内、2人が20歳未満で、自殺率は世界第6位である。

- ・ 5人に1人が一生の内に心の病気になる
- ・ 100人に6人がうつ病になる
- ・ 100人に1人が統合失調症になる

といった具体的な数値による事実から、中学生として悩んでいる様子の人にできることについて学びました。

授業を終えた生徒たちは、「自殺者が多いことは知っていたけど、世界的にも多いということは初めて知った。もし悩んでいる人を見たら優しく声を掛けたい。」といった振り返りを書いていました。



創生の体育大会

9月22日（金）

詳細については、学校報9月号をご覧ください。

学校報に載せることができなかった、学校運営協議会委員の方からの感想が届きましたので、ここに掲載します。



中学生にとって楽しい体育大会を開催でき、本当におめでとうございました。特に３年生にとっては、最高の場となったと思います。

体育大会で印象に残ったことを３点書かせてもらいます。

１点目は、生徒たちの表情がとてもよかったことです。笑顔で意欲に満ちていました。

２点目は、先生方の動きが全員一致して成功させようとする姿がとても気持ちよかったです。

３点目は、教科体育の成果としてバトンパスの技能の全体的レベルが高かったと感じました。

北中の学校経営が学校長の意図するものと一致し、学校・地域・家庭が一体となって動いていることを感じた体育大会でした。有り難うございました。

授業アシスタント事業

９月２９日（金）

キャリア教育の一環として、瑞浪北中学校を昨年度卒業し、多治見西高等学校に進学した小池 一真君が北中在学時とは違う視点で半日間過ごしました。

１・２時間目は、グラウンドで草集めと軽トラックへの積み込み作業、３・４時間目は、１年生の数学・理科でのアシスタントを行いました。

自己紹介の中で、「北中学校で学んだ『主体性』は高校生活の中でも生かされています。」という言葉は、学びが継続されており、素晴らしいと思いました。

グラウンドでの作業では一生懸命、授業アシスタントではアシスタントとして誠実に動くことができていました。半日間だけでしたが、とても助かりました。

今後の高校生活が益々充実したものになることを期待しています。



みずなみ福祉まつり

１０月７日（土）

笹踊り奉納

１０月８日（日）



衣替え移行期間

10月10日(火)

儀式的行事と期末テスト・中間テスト以来、制服登校はありませんでしたが、本日から移行期間も含めて、制服登校に戻します。制服登校について、「暑い。」、続いて「重い。」という感想を聞きました。見ている側としては、締まった雰囲気が出ると感じました。

移行期間内は、自身の判断で夏服・冬服の選択をしてくださいね。

